

私の暮らしと町を助けてくれた税

珠洲市立緑丘中学校3年 奥佐 宗心

今年の5月5日に奥能登地震が発生しました。震度6強の大地震は、私の家も町も一瞬にして壊してしまいました。家の玄関の窓は全て目の前の道路に飛び出て割れてしまいました。屋根の瓦はゆがんで落ちました。柱が傾き家具が倒れ、家の中がぐちゃぐちゃになりました。木造と鉄骨の部分で、家は真二つに割れてしまいました。町の道路はひび割れ隆起と沈降で歩くのも怖くなりました。近所にはぺちゃんこに崩れてしまった家、大きく平行四辺形に歪んでしまった家が何軒もありました。私はその景色を見て戦場みたいだなと思いました。怖すぎて悲しすぎて何も考えられなくなりました。家族と一緒に家の中を片付けながらだんだんと、これからどうなっていくんだろうと不安な気持ちでいっぱいになりました。家は直るのか、壊して引っ越しをしなければいけないのか、お金はどれくらいかかるのか、それまであたり前に過ごしていた私の生活や暮らし、大好きな町は元に戻るのだろうか、と考えてしまい苦しくなりました。

私はその不安な気持ちをお母さんに相談しました。すると、お母さんは税金で国や市が助けてくれる制度があるらしいよと教えてくれました。

まず、地震で出たたくさんの災害ゴミは、無料で受けとってくれました。崩れた屋根や窓を直すために緊急修理制度や応急修理制度によって市が修理費を払ってくれました。また、国の被災者生活再建支援金制度、市はそれに加え、独自に珠洲市被災者生活再建支援給付金事業により、建物を直したり生活を再建するためのお金をくれました。私の家は自営業をしていますが、珠洲市被災事業者再建支援事業費補助金によって壊れた機械やお店を直すためのお金がもらえることになりました。国が今回の地震を局地激甚災害の対象に指定したことにより、道路や学校などの公共施設を直すお金がもらえることになりました。大人たちが納めてくれている税金がたくさんの制度によって配られこんな形で自分の暮らしや町を助けてくれることを初めて知り、感謝の気持ちになりました。

そして、税金によるお金以外にも支えてくれたものがありました。それは、全国からかけつけてくれたボランティアさんの力です。家族だけじゃとても片付けられない状況を助けてくれました。

私はこれまで、何で税金が必要なのか、自分にどう関わっているのか、分からなかったし、大人になって納める意味も分かりませんでした。でも、今回私が災害にあって、自らの暮らしや生活が不安でいっぱいになって初めて助けられたと思える経験ができました。

だから、私も大人になったらしっかり仕事をして税金を納めて、誰かを助ける力になりたいです。